

愛知県 一宮市立北方小学校 特別支援学級(2、4年生)3名
甲田智子 先生、池村理恵子 先生

テーマ 【おいしいトマトを育てよう】

■ 活動のきっかけ:

子どもたちは調理して食べる活動は好きだが、栽培活動には興味や関心が低く、また、全員が野菜嫌いであった。トマトは色の変化が鮮やかで、においもあり、収穫したらそのまま食べられるため、子どもが興味を持ちやすいのではと考えた。そこで、なるべく子ども自身が栽培に関われるよう促し、苗の変化をとらえやすいよう見たり触ったりしながら「凜々子」を栽培し、みんなで食べる活動を計画した。

■ 活動のねらい:

- 学年や障害が異なるクラスの友達と一緒にトマトの世話をを行う
- トマトの生長を自分なりに記録する
- 収穫したトマトを調理しておいしく味わい、好き嫌いをなくす

■ 活動の流れ:

① トマトの栽培場所を工夫する (5月14日定植)

車椅子の児童は土に触れることができるように座らせるなど、子どもたちの障害に合わせて、学校園に10本程の苗を植えた。次に、各自が観察する苗を決め、苗の様子を見たり、世話をしやすいよう、手を伸ばせば届く位置に必要な応じて植え直した。



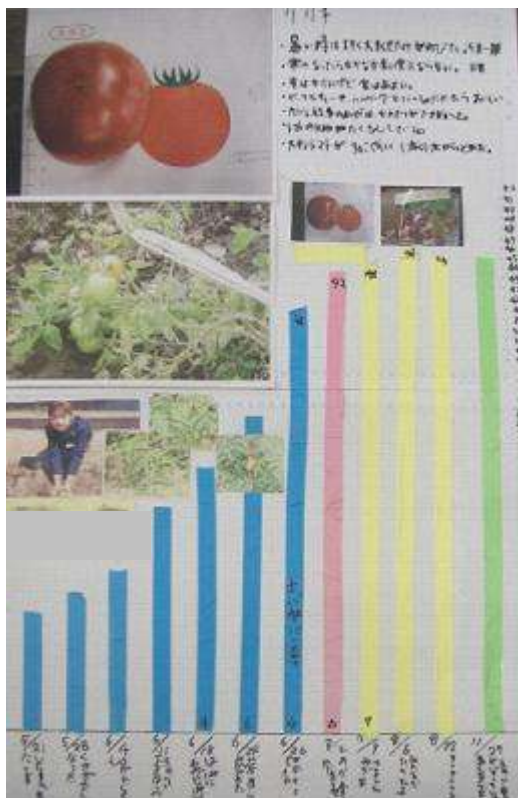
② 視覚で理解を深め、興味を高める観察記録 (5/14~11/29)

生活単元活動の時間を「トマトの身体検査の日」として、週に一度、観察を行なった。子どもたちは観察カードへの記録が困難なため、苗の高さと実の数や気づいたことはメモするか話すことで記録していくことにした。草丈の記録では、紙テープを草丈の長さに切り取り、視力の弱い子どもにも読めるよう大きな紙に貼り付けていった。子どもたちができる作業内容に違いがあるため、各自ができるところまでを補助しながら、全員が「自分で行なった」ことを実感できるよう留意した。

収穫したトマトや尻腐れ果は、ティーチャーズガイドの写真と比較しながら、大きさや完熟度、症状などを確認した。(右写真左上)

紙テープを使った色鮮やかな棒グラフは、苗の生長が視覚的にわかり、子どもたちの栽培への興味や次の観察への期待を高めることができた。

また、活動のふり返りにも大変有効であった。



③ 調理でトマト嫌い克服！（12月下旬）

11月に入ると実が色づかなくなりましたが、未熟なトマトも子どもたちに食べさせたいと考え、収穫して常温で置いておいた。収穫から約2週間後の調理当日には、追熟して赤く色づいた実を使って全員でビーフカレーを作った。夏にはトマトが食べられなかった子どももおいしく味わうことができた。



■ 活動によって得られた成果:

- 自分の苗を決めたことで、自分で野菜を育てていることに喜びを感じる事ができた。
- 苗の生長の変化を棒グラフで表すことができた。また、グラフ化したことで栽培や観察への意欲も高まった。さらに、長さを測ることで自分の苗への愛着を持つことにつながった。
- トマト嫌いだった子どもたちが、自分で育てた「凜々子」を使って調理し、おいしく食べる事ができた。

■ モグモからのメッセージ:

一つ一つの活動が、どの学校や園でも真似できるアイデア満載の取り組みだよ！粘り強く観察を続けたことで、グラフの伸びとともにトマトへの愛情も深まっていったんだね。観察記録には、みんなの栽培への情熱も記録されていたよ。未熟なトマトも無駄にしないで調理にチャレンジ！自分で料理したことで、トマトが苦手だったお友だちも最後にはトマトをおいしく食べられたね。すごいぞ～！

